

古津八幡山遺跡発掘調査速報展

— 令和2年度の発掘調査成果 —

2021 4.27 (火) ~ 9.5 (日)

企画展開催にあたって

古津八幡山遺跡は、標高約50mの丘陵上にある弥生時代後期（約2000年前）の大規模な高地性環濠集落です。また、古墳時代中期（約1600年前）には県内最大の古墳である古津八幡山古墳が築かれます。当時の日本列島の社会情勢を考える上で核となる重要な遺跡であることから、2005（平成17）年に国の史跡に指定されました。2006（平成18）年より整備事業を始め、主要エリアの整備が終わった2015（平成27）年から歴史の広場として全面供用を開始しています。

遺跡では史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外における遺跡の状況把握を目的とした発掘調査を2017（平成29）年度から行っており、これまでに多くの成果が得られています。本企画展では、昨年実施した発掘調査の成果を中心に展示します。

企画展で使用する時代などの名称

本企画展では弥生時代を前期、中期、後期、終末期の4時期に区分しています。今回の展示の中心はこのうちの弥生時代後期と終末期で、邪馬台国の女王、卑弥呼が生きた時代と一部重なる時期となります。なお、弥生時代の終末期は古墳時代早期と呼ぶ場合もあります。弥生時代の実年代については諸説ありますが、弥生時代後期のはじまりは紀元後すぐくらい、古墳時代早期のはじまりは西暦250年くらいと推測されます。

※白抜きは横穴式の埋葬施設・右数値は規模（m）

時期区分	時期	古墳集成編年	須恵器	阿賀北	信濃川左岸			信濃川右岸			魚野川流域	頸城平野		佐渡
					信濃川河口付近	弥彦・角田山麓	長崎川・西山丘陵周辺	新津丘陵	東山丘陵（三条周辺）	東山丘陵（長岡周辺）		西部	東部	
1	弥生前期						坂崎塚 10 奈良崎1号 11 奈良崎3号 10	古津八幡山 6				矢代山 18	子安 12	
	弥生終末期			正良 5		堀入南 7	古津八幡山 13			横山 13			子安 8	
300	前期	1期		二本松 15 恵山 1		堀崎塚 27 山谷 37	大久保 1 25 大久保 2 18	三王山 4 16				観音平 1 27 観音平 4 34	子安 10	
	前期	2期		城の山 42	横立八幡 30	葛塚塚 24 観音山 26	奈良崎 1 18	三王山 11 22 三王山 1 38						
	後期	3期						三王山 1 19			吉井行塚 1 32		丸山 20	
	後期	4期						古津八幡山 60						
400	前期	5期	T G 232											
	前期	6期	T K 73		牡丹山 30						飯綱山 27 36 飯綱山 65 11			
	後期	7期	T K 216 ~ T K 208								飯綱山 10 36	栗田 3 227 黒谷 6 55 飯綱山 1 18	大野古墳群	
	後期	8期	T K 23 ~ T K 47											
500	前期	9期	M T 15 ~ T K 10		浦島山 2 7.5			三王山 5 14 三王山 12 13.5					電原 31 29	台ヶ原 10
	後期	10期	M T 85 ~ T K 48								鎌倉 1 10	梨ノ木 1 16		ケラマキ 3 11
600	前期		T K 209 T K 217 ~			大塚塚 15					南山 1 南山 2 0	西保 2 15.5 谷内林 1 10	宮口 11 11 水科 21 10.5	ケラマキ 5 11 三貫田河原 舟ノ沢

【伝説 1991】 【伝説 1981】 ※異年代層や時期区分、古墳の位置付けについては様々な見解があります。今後の調査や研究によって、古墳の形や規模、年代が変わる可能性があります。

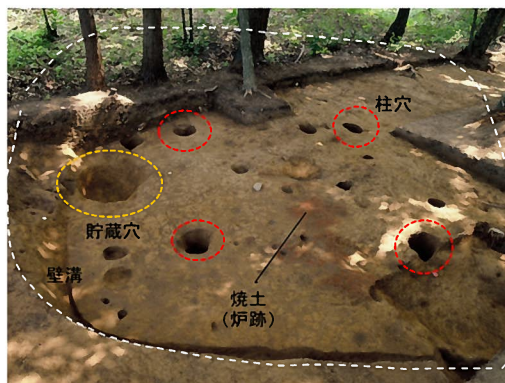
県内のおもな古墳

本企画展で使用する建物などの名称

堅穴建物の多くは居住用と考えられますが、それ以外にも倉庫、集会所、工房跡、祭祀場など様々な用途に利用されていた可能性が指摘されています。そのため、居住用であることが確認できない場合には堅穴建物と表記するのが一般的です。

一方、古津八幡山遺跡では、これまでパンフレットなどで堅穴住居と表記してきた経緯を踏まえ、本企画展でも基本的に堅穴住居と表記しています。ただし、大型堅穴建物（SI1）については、令和2（2020）年の調査で煮炊きの使用を示す炉跡や、貯蔵穴などが確認できなかったことから、堅穴建物と表記しています。

また、県内の堅穴建物の規模の比較などから、一辺もしくは直径が概ね8m以上の建物について「大型建物」としています。



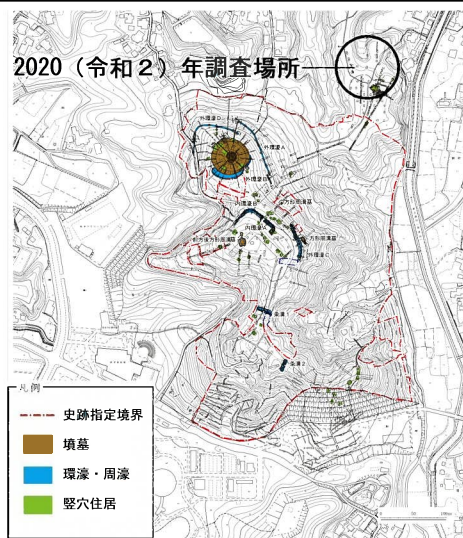
古津八幡山遺跡の堅穴住居

2020（令和2）年度の発掘調査

2020（令和2）年度は、遺跡北東域の史跡指定地外（隣接地）の場所において、地権者のご理解のもと発掘調査（第23次調査）を実施しました。

調査地は標高約50mの遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵中腹域にあたり、標高約25mの平坦面及び緩斜面域に位置します。

2020（令和2）年は、2017・2018（平成29・30）年の発掘調査で見つかった大型堅穴建物（SI1）などの構造や、尾根北側の遺構の分布状況の把握をおもな目的として発掘調査を行いました。



2020（令和2）年の調査位置図

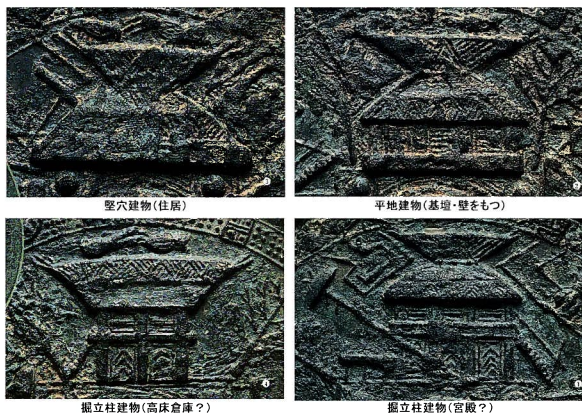
弥生時代の建物

弥生時代の建物には大きく分けて堅穴住居（建物）と掘立柱建物があります。堅穴住居は地面に穴を掘って床と壁をつくり、柱を立てて、梁と桁を組み合わせて屋根をかけてつくります。一方、掘立柱建物は、地中に木柱を掘り立て、あるいは打ち込んで建てる建物で、床面は低い土間・床敷のものと高床のものとがあります。

また、これら建物の中には周りに溝や土坑を伴うものもあり（周溝をもつ建物）、特に幅の広い溝・土坑を周りに伴う建物は、他と比べて大型の傾向にあることが指摘され

ています。

建物の上屋については基本的に腐って残っていないため不明な点が多いですが、鏡や刀の飾りに表現された建物や出土した建築部材などから復元が試みられています。また、奈良県佐味田宝塚古墳出土の鏡には竪穴建物・掘立柱建物・平地建物が描かれています。掘立柱建物のひとつには貴人を象徴する蓋が差し掛けられており、その建物が身分の高い人物の建物であることを示唆しています。なお、3つの建物の屋根の上には鳥が表現され、象徴的な存在となっています。



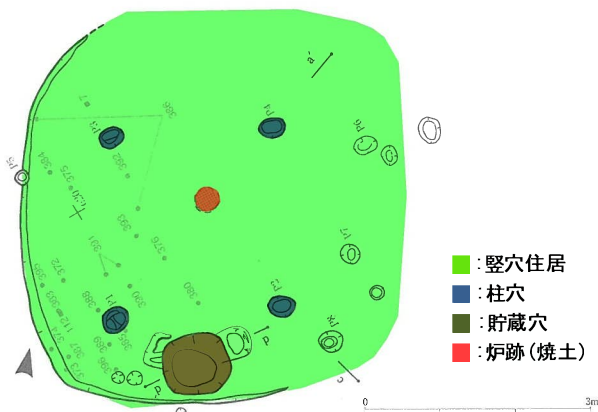
家屋文鏡の建物（奈良県佐味田宝塚古墳出土 4世紀）
白石太一郎編 1990『古墳時代の工芸』講談社より

古津八幡山遺跡における弥生時代の竪穴住居

古津八幡山遺跡では、これまでに弥生時代後期・終末期の竪穴住居が 63 棟確認されています。

古津八幡山遺跡での弥生時代の一般的な竪穴住居は、平面が四角形で、四隅が丸みをもつ「隅丸方形」の竪穴住居です。また、一边は5m前後の大きさのものが一般的です。壁際には排水や湿度調整などのためと考えられる溝（壁溝）が巡ります。柱は4本柱が基本で、中央には炉跡（焼土）があり、壁際中央には貯蔵穴が1つ設けられます。また、掘削した土砂を山側に周堤状に盛り上げ、さらに外側に周溝をもつものも存在します。

なお、これまでの調査で焼失住居が3棟確認されています。そのうちの1棟（SI1730）からは多くの炭化米が出土しました。炭化米の中には籾殻が残存するものもあり、穂束や籾の付いた稲藁の状態であったと考えられます。炭化米の状態からは、比較的弱い火や熱を受けて炭化したと判断されます。



古津八幡山遺跡竪穴住居平面図（SI03N03）



古津八幡山遺跡出土炭化米
（第17次調査で竪穴住居（SI1730）から出土）

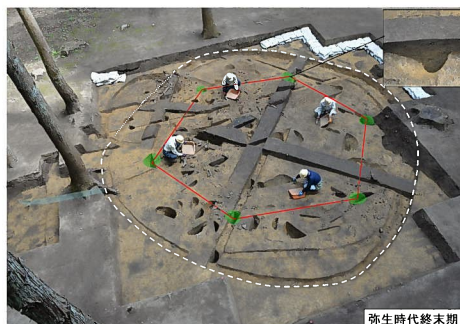
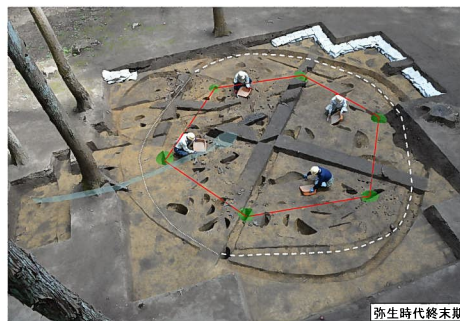
大型竪穴建物（SI 1）の構造

建物の平面形は、隅が丸く、やや胴の張る方形（隅丸方形）をなし、一辺約 9.5m と当遺跡最大の建物です。竪穴建物の壁際には壁溝が巡ります。壁溝は 2 条確認されており、建物の建て替えが 1 回行われたと考えられます。内側の溝の方が古く、当初は不整な楕円形もしくは多角形を呈していたと推測されます。年代は出土土器などから弥生時代の終わり頃（約 1800 年前）と判断されます。

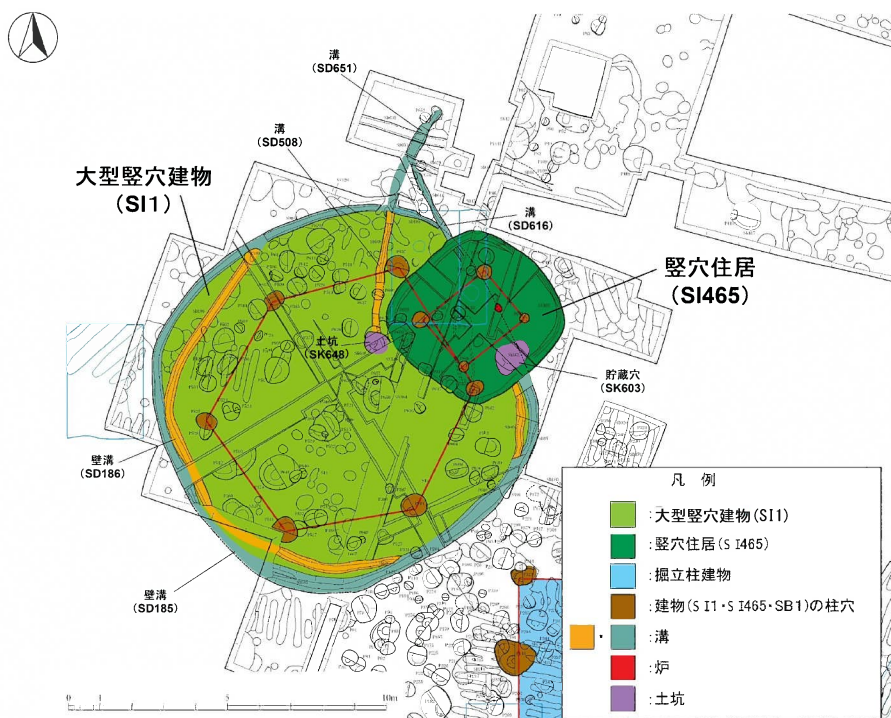
建物の上屋を支えるための柱は、建て替え前・建て替え後ともに一般的な竪穴住居の 4 本よりも多い 6 本であったと推定されます。通常の竪穴住居で見られる煮炊きを行うための炉や、物資を蓄えるための貯蔵穴は確認されませんでした。

また、建て替え前は中央付近の土坑から、建て替え後には壁溝から建物外北側へと延びる溝（排水溝）の存在も確認されました。この種の溝を伴う建物は、古津八幡山遺跡ではこれまでの調査で確認されていませんでした。

このように、建物の規模や構造などから居住以外に利用された特別な建物であった可能性が推測されます。



建て替え前（左）・建て替え後（右）
の大型竪穴建物（SI1）壁溝外側ラ
インと柱穴・排水溝

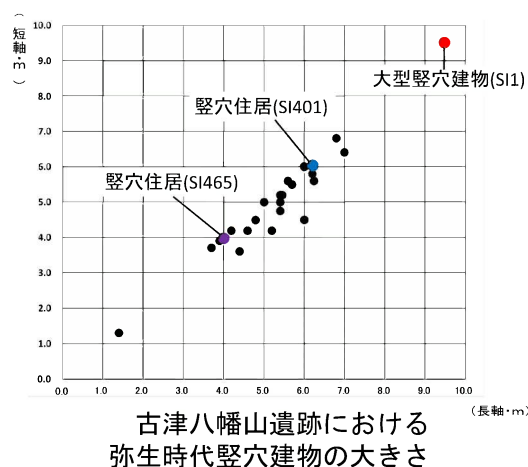


大型竪穴建物（SI1）周辺平面図

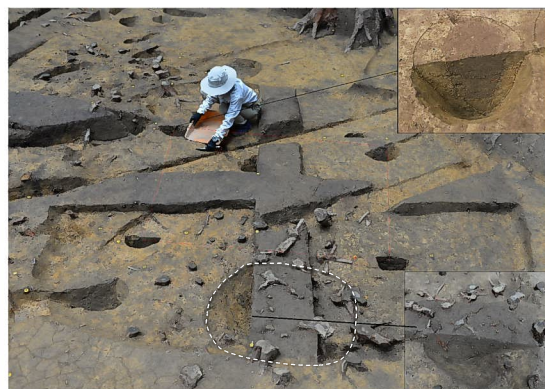
竪穴住居（SI465）の構造

大型竪穴建物（SI 1）と西側で一部重複しています。住居の形態は隅丸方形をなし、一辺が約4 mの大きさです。竪穴住居の壁際には壁溝が巡ります。上屋を支える4本の柱穴のほか、炉や貯蔵穴、壁溝から北西方向に延びる排水溝などが確認されました。

年代については、大型竪穴建物（SI 1）を壊してつくっていることや出土遺物などから、大型竪穴建物（SI 1）よりも新しい、古津八幡山集落における最終段階の住居と考えられます。



竪穴住居（SI465）壁溝外側ライン
と柱穴・貯蔵穴・排水溝



竪穴住居（SI465）全景と
柱穴・貯蔵穴の断面

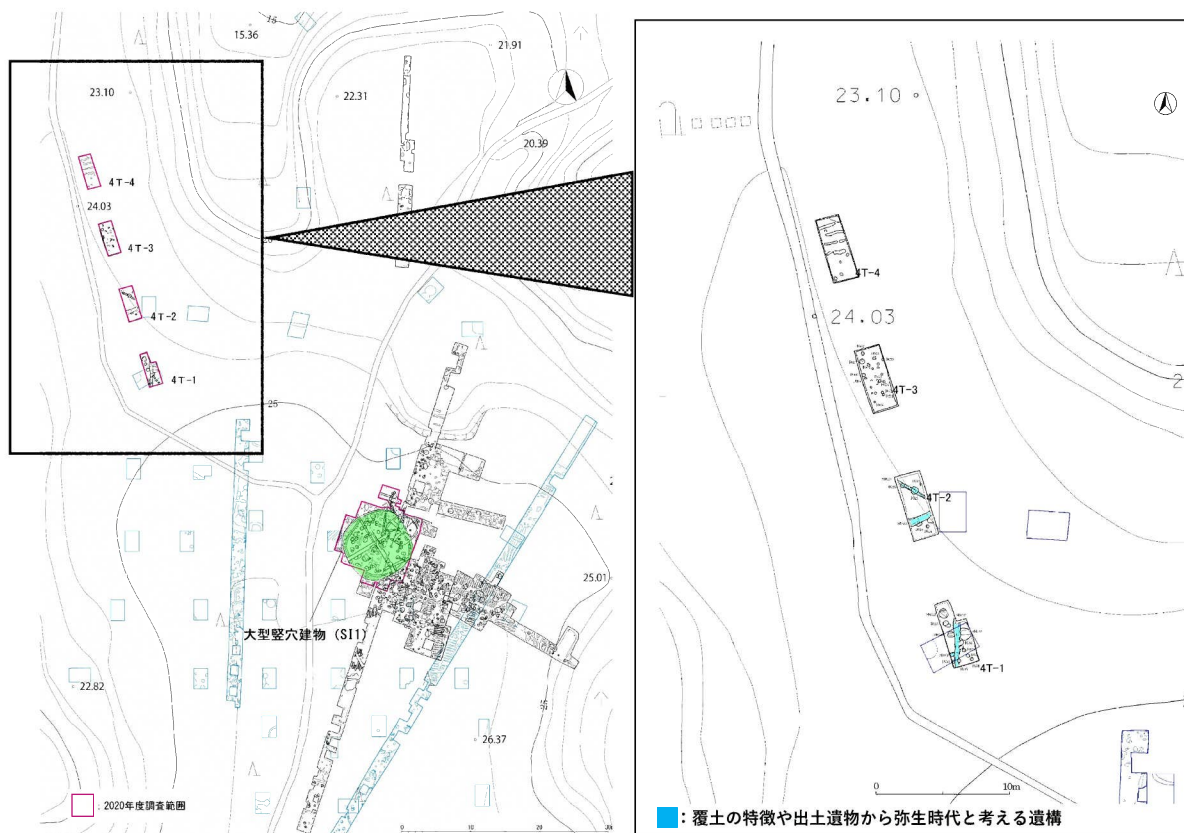
尾根北側の調査

2020（令和2）年の調査では、大型竪穴建物のある尾根のさらに北側についても、状況把握のため4か所のトレンチ調査を行いました（4トレンチ（T）－1～4）。その結果、縄文時代と弥生時代の遺構や遺物が確認されました。

遺構の覆土の特徴や出土土器などから、弥生時代（後期もしくは終末期）と判断される溝やピットが確認されました。ピットの中には柱の穴も存在することから、周辺に建物が存在する可能性もあります。なお、戦中戦後の畑の跡と推測される溝も確認されました。

また、4トレンチ周辺は現在ほぼ平坦な地形ですが、4トレンチの1・2と4トレンチの3・4の間に東西方向の谷地形が存在したことも分かりました。

尾根の北側については、遺構の分布状況などについてさらに把握をするため、2021（令和3）年度も継続して発掘調査を行う予定です。調査によって、弥生時代の建物などが発見される可能性もあり、古津八幡山遺跡の動向がより明らかになることでしょう。



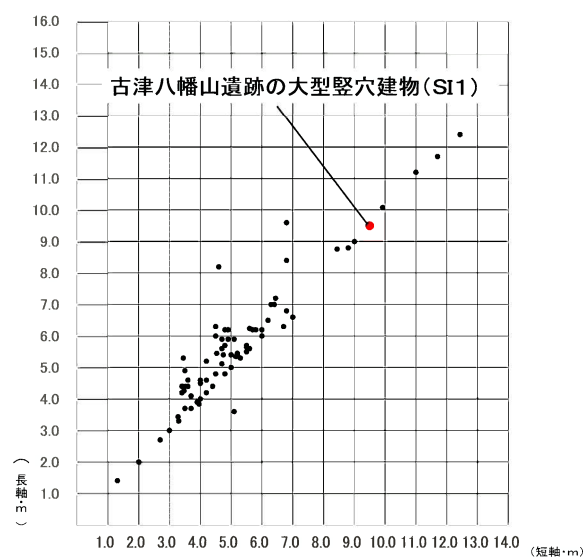
尾根北側の調査トレンチ（４Ｔ）位置図（左）および４Ｔ平面図（右）

県内の弥生時代後期・終末期の竪穴建物

古津八幡山遺跡では、弥生時代後期・終末期の竪穴建物はこれまで計 63 棟確認されており、平面形の分かるものについては、いずれも隅丸方形（隅丸長方形）です。

県内の竪穴建物の平面形をみると、円形と隅丸（長）方形の２種類が確認できます。全体的に隅丸方形が大半を占めますが、村上市では円形の竪穴建物が多い傾向にあります。円形の建物は弥生時代後期よりも古い時期に多く認められ、村上市周辺では古い建物の伝統が県内の他地域より遅くまで残っていた可能性があります。

竪穴建物の規模を見ると、一辺が 5 m 前後のものが平均的な大きさといえ、古津八幡山遺跡

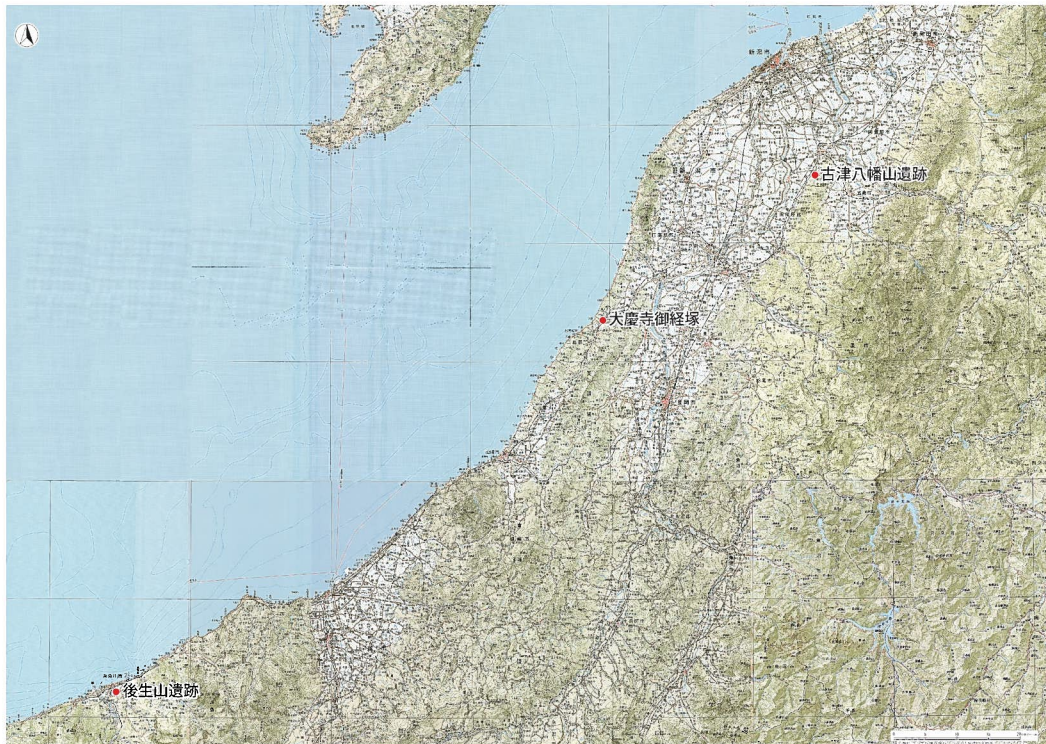


新潟県における弥生時代後期・終末期のおもな竪穴建物の大きさ

の大型竪穴建物（SI 1）のように、一辺が 9 m を超す建物は非常に少ないことが分かります。なお、柱の本数は 4 本のものが大半を占め、SI 1 のように柱が 5 本以上の構造の建物は少数といえます。またこの時期、県内において建物内に土坑から延びる排水溝をもつ建物の事例は、現状で糸魚川市の後生山遺跡 1 号住居と出雲崎町の大慶寺御経塚 1 号竪穴建物など数例に限られます。

新潟県における弥生時代後期・終末期のおもな竪穴建物

遺跡名	市町村名	低地との 比高	遺構名	平面形	規模 (m)		主柱穴の数	備考
					短軸	長軸		
滝ノ前遺跡	村上市	40m	第1号住居跡	円?	—	—	不明(柱穴3)	
			第2号住居跡	円	5.5	5.7	不明(柱穴多)	
			第3号住居跡	円	5.2	5.4	不明(柱穴多)	
山元遺跡	村上市	37m	1号竪穴建物	楕円	4.5	6.3	抽出できず	
中曽根遺跡	村上市	0m	SI40	楕円?	4.8	5.7	不明(柱穴5本確認)	
			SI41	楕円?	4.6	8.2	不明(柱穴4)	
堂の前遺跡	村上市	0m	SI318	楕円	4.5	5.5	4か(3本確認)	
大沢遺跡	新潟市	30m	1号住居跡	隅丸方形	3.7	—	4	
			2号住居跡	隅丸方形	3.0	3.0	不明(確認されていない)	
			4号住居跡	隅丸方形	4.0	4.0	4	
			6号住居跡	隅丸方形	2.0	2.0	不明(柱穴3か6)	
経塚山遺跡	三条市	67m	1号住居址	?	—	—	不明(ヒット1)	
			2号住居址	隅丸方形	4.7	—	不明(ヒット3)	
			3号住居址	隅丸方形?	—	—	不明	
吉津川遺跡	三条市	0m	SI1	隅丸方形	7.5	6.9	4	周溝を持つ建物
岩沢遺跡	見附市	40m	3号住居跡	隅丸方形	3.3	3.3	不明	
			4号住居跡	隅丸方形	4.8	4.8	不明	
高稲場遺跡	見附市	15~20m	1号住居跡	隅丸方形	—	—	不明	
山崎A遺跡	見附市	30~35m	003住居跡	隅丸方形?	—	—	不明(柱穴2)	
藤ヶ森遺跡	長岡市	26~32m	竪穴住居跡	隅丸方形	6.3	7.0	4か(3本確認)	
横山遺跡	長岡市	6m	1号住居跡	隅丸方形	5.0	5.0	4	
			2号住居跡	隅丸方形	5.3	5.3	4	
			3号住居跡	方形	4.4	4.4	4か(3本確認)	
			4号住居跡	隅丸方形	3.6	—	不明	
奈良崎遺跡	長岡市	22m	SI4	円?	3.5	5.3	不明	
			SI12	円	9.6	—	不明	
			SI20	?	—	—	不明	
			SI105	隅丸方形	4.6	—	不明	
			SI102A	隅丸方形	3.5	3.7	4	
			SI102B	方形	3.3	3.4	4	
			SI1561	隅丸方形	—	—	4	
			方形周溝状遺構	隅丸方形	9.1	9.0	4	周溝を持つ建物
			住居跡	隅丸方形	6.3	6.3	4	
			住居跡	隅丸方形	8.4	8.8	4	
五斗田遺跡	長岡市	0m	1号竪穴建物	隅丸方形	8.4	8.8	4	
大慶寺御経塚遺跡	出雲崎町	34m	住居跡	隅丸方形	8.4	8.8	4	
内越遺跡	柏崎市	15~20m	1号竪穴	隅丸方形	4.8	6.2	4	
裏山遺跡	上越市	75m	2号竪穴	隅丸方形	4.7	5.6	4	
			3号竪穴	楕円形	3.5	4.9	0か	
			4号竪穴	隅丸方形?	5.0	—	不明	
			5号竪穴	?	—	—	不明	
			6号竪穴	隅丸方形	3.7	4.1	0か	
			7号竪穴	隅丸方形	3.5	4.4	不明	
			8号竪穴	隅丸方形	3.4	4.2	不明	
			9号竪穴	円?	8.0?	—	7	
下馬場遺跡	上越市	30~40m	1号竪穴	隅丸方形	9.0	9.0	4	
			2号竪穴	隅丸方形	5.0	5.0	4	
			3号竪穴	隅丸方形	5.7	6.2	4	
			4号竪穴	隅丸方形	4.5	4.8	2	
			5号竪穴	隅丸方形	4.0	4.6	2	
			6号竪穴	隅丸方形	8.8	8.8	5	
			7号竪穴	隅丸方形	3.6	—	不明	
			8号竪穴	隅丸(長)方形	3.4	4.4	2	
			9号竪穴	隅丸方形	3.5	—	2か(1本確認)	
			10号竪穴	隅丸方形	6.2	6.5	4	
			11号竪穴	隅丸(長)方形	4.9	6.2	2	
			12号竪穴	隅丸方形	4.9	5.9	2	
			13号竪穴	隅丸方形?	—	—	不明	
			14号竪穴	隅丸方形	5.1	5.9	3(柱穴3)	
山畑遺跡	上越市	15~20m	7号住居跡	隅丸方形	—	—	不明	
吹上遺跡	上越市	0m	SI688A、B	隅丸方形?	—	—	不明	
			SI696A、B、C	隅丸(長)方形	6.8	9.6	不明	
			SI20239	隅丸(長)方形	6.8	8.4	4	
			SI20240	隅丸(長)方形	4.0	4.5	5	
子安遺跡	上越市	0m	SI20631	隅丸方形?	6.0	—	4か(2or3本確認)	周溝を持つ建物
			SI20648	隅丸方形?	7.5	—	4か(2本確認)	周溝を持つ建物
			SI20649	隅丸方形?	5.5	5.5	4	周溝を持つ建物
			SI20724	隅丸方形?	7.0	6.5	6	周溝を持つ建物
			SI20900	方形	4.7	5.6	2	周溝を持つ建物
			SI20968	円形?	7.0	6.4	5	周溝を持つ建物
			SI20969	隅丸方形	9.1	8.7	不明	周溝を持つ建物
中島廻り遺跡	上越市	0m	1号墳	隅丸方形	3.5	4.3	不明	
荒町新南田遺跡	上越市	5~10m	SI1356	隅丸(長)方形	6.4	7.2	不明	
			SI41	隅丸方形	9.9	10.1	4か(1基確認)	
			SI83	隅丸方形	11.0	11.2	不明	
			SI1050	隅丸方形	11.7	11.7	不明	
			SI1152	隅丸方形	—	—	不明	
			SI1271	隅丸方形?	3.5	—	不明	
			SI1274	長方形?	—	—	不明	
			SI1276	隅丸方形?	—	—	不明	
			SI1277	隅丸(長)方形?	—	—	不明	
			SI1278	?	—	—	不明	
			SI1280	隅丸方形?	3.8	4.0	不明	
			SI1282	隅丸方形	7.0	6.6	不明	
			SI1553	長方形	5.1	3.6	不明	
			SI1556	方形	6.7	6.3	不明	
			SI1581	長方形	4.7	5.9	不明	
			SI1582	?	—	—	不明	
			SI1583	隅丸方形	12.4	12.4	4	
			SI1564	隅丸方形	6.0	6.0	4	
			SI1568	隅丸方形	6.0	6.0	4	
			上ノ平・矢代山地区1号	隅丸方形	5.0	5.0	2か(柱穴は9基確認)	
			上ノ平・矢代山地区2号	方形	2.7	2.7	不明(小穴あり)	
			上ノ平・矢代山地区24号	方形	5.2	—	不明(1基確認)	
			百南山地区第31号	隅丸方形?	7.0	—	4	
			矢代山墳丘墓群C支群SI1	隅丸方形	4.0	4.0	0	
後生山遺跡	糸魚川市	30m	1号住居跡	隅丸方形	6.0	—	4	
			2号住居跡	隅丸方形	—	—	2	
			3号住居跡	隅丸方形	3.6	4.6	柱穴6基(主柱穴かは不明)	
			4号住居跡	隅丸方形	5.5	—	柱穴4基(主柱穴かは不明)	
堰下遺跡	津南町	100m	1号住居跡	円?	4.7	5.1	不明	
蔵王遺跡	佐渡市	0m	SI1	隅丸方形	—	—	不明	



新潟県における弥生時代後期・終末期の排水溝をもつ竪穴建物検出遺跡

県内の弥生時代後期・終末期の大型竪穴建物

新潟県内における弥生時代後期・終末期の大型竪穴建物は非常に少なく、現状では古津八幡山遺跡以外では西山丘陵周辺や上越市域にほぼ限られています。

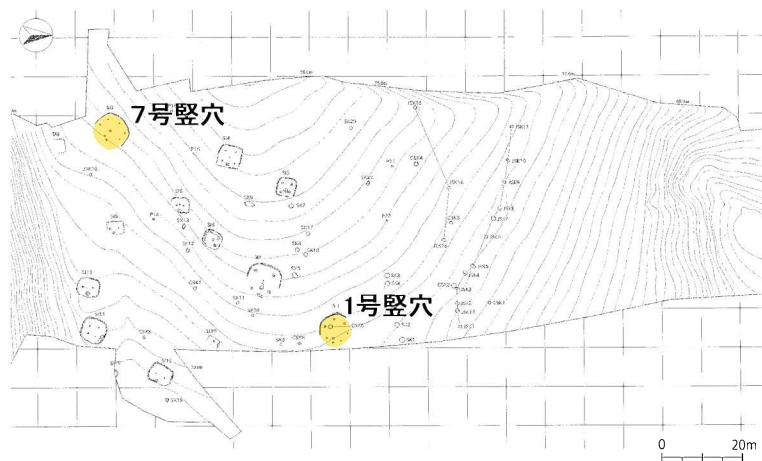
上越市の釜蓋遺跡では一辺が 10m以上の隅丸方形の竪穴建物が 4 棟確認されています。このうち、発掘調査が行われた釜蓋遺跡において最大の竪穴建物 SI1568 は、一辺約 12.4mの隅丸方形の建物で、上屋を支えるための柱が 4 本の建物であったと考えられています。なお、炉の痕跡は確認されませんでした。釜蓋遺跡は集落の周りに濠を巡らす大規模な環濠集落で、有力者の存在が推測されています。



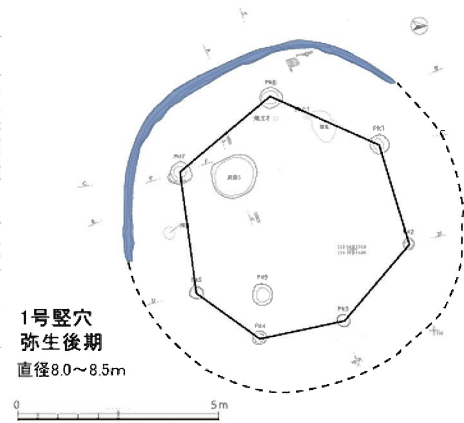
釜蓋遺跡の竪穴建物 (SI183・SI141)

上越市教育委員会提供

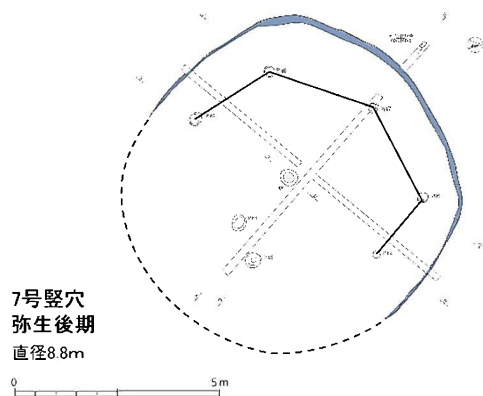
また、高地性環濠集落である下馬場遺跡では、標高約 75mの丘陵において 12 棟の竪穴建物が発掘調査で確認されており、そのうち 8 m代の大型竪穴建物が 3 棟検出されています。一辺約 9 mの隅丸方形の 2 号竪穴は 4 本柱の建物ですが、直径約 8 mの円形状の 1 号竪穴や、一辺約 8.8mで隅丸方形の 7 号竪穴については、多柱の建物構造であったと考えられています。ちなみに、上越市の子安遺跡の周溝をもつ竪穴建物 (SI20900) は、主柱穴が 6 本と推定されています。



下馬場遺跡全体図



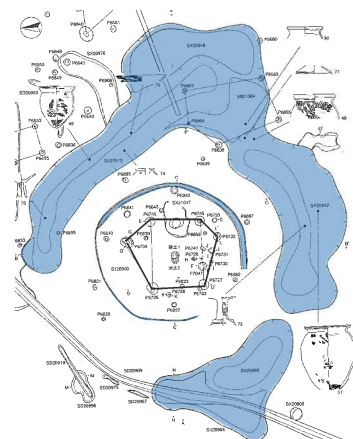
下馬場遺跡 1号竖穴



下馬場遺跡 7号竖穴

上越市 子安遺跡

SI20900
竖穴
弥生後期
隅丸方形? 6.5×7.0m



子安遺跡 竖穴建物(SI20900)

北陸の弥生時代後期・終末期の大型建物

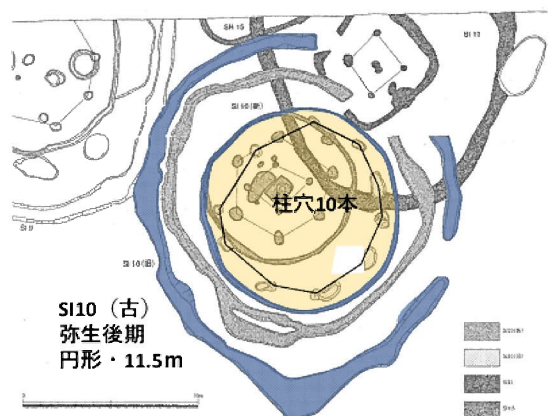
この時期の大型建物は、各地域の有力な集落で確認されています。富山県では、大規模な拠点集落である下老子笹川遺跡(高岡市)で、大型建物が複数棟確認されています。その中の SI10 は、弥生時代後期には直径約 11.5m の円形状の建物ですが、弥生時代終末期には直径約 8.5m とやや規模を縮小して建て替えが行われたことが分かっています。また、柱はそれぞれ 10 本、6 本の構造であったと考えられています。

石川県では、古墳時代に北陸で数少ない豪族居館の可能性が指摘されている千代能美遺跡(小松市)や、その近距離に位置する八里向山遺跡・一針B遺跡(同市)などで大型建物が確認されています。これらの遺跡は、関連する一連の集落であったと推測されています。

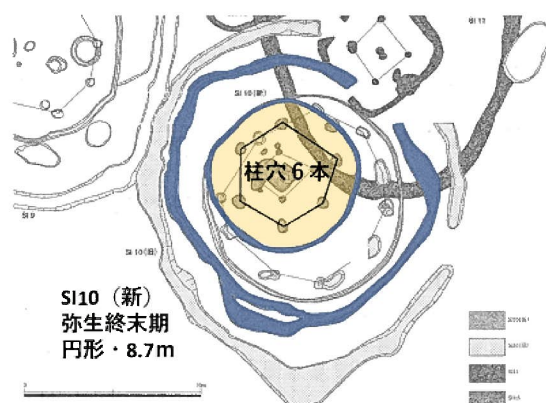
弥生時代後期の直径 11.2m の大型建物である八里向山遺跡 SI02A や、直径約 10m の一針B遺跡 SI01 では、8 基の柱の穴が確認されています。また、弥生時代終末期に位

置つけられる直径約 11.5mの千代能美遺跡 SI01 は、11 本の柱であった可能性が推定されています。

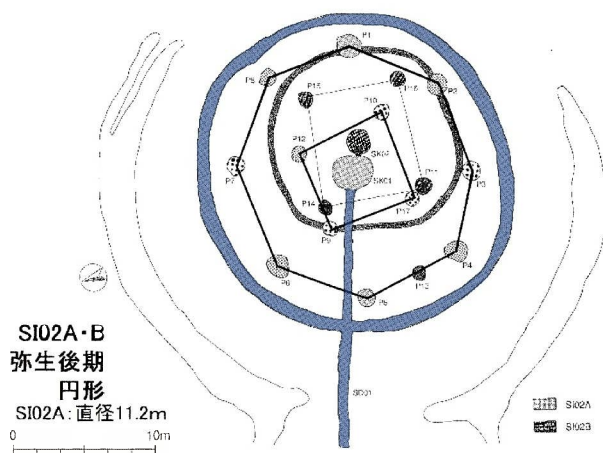
なお、八里向山遺跡 SI02Aや一針B遺跡 SI01 の建物に見られるように、これらの大型建物をもつ有力集落では、建物内の土坑や壁溝から外へと延びる排水溝を伴う建物が確認されており、古津八幡山遺跡の大型竪穴建物（SI 1）や竪穴住居（SI465）との共通点が認められます。



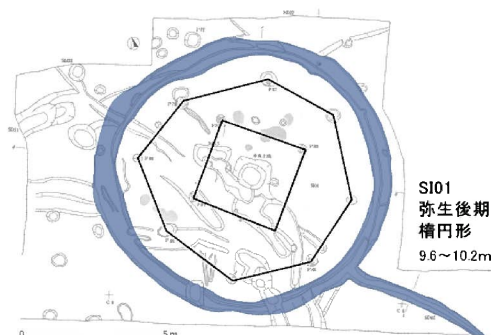
富山県 下老子笹川遺跡 SI10(古)



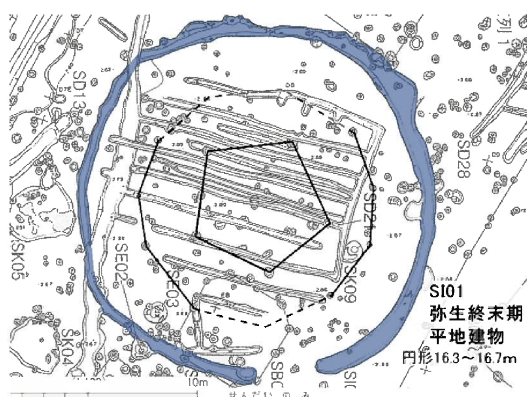
富山県 下老子笹川遺跡 SI10(新)



石川県 八里向山遺跡 SI02A



石川県 一針B遺跡 SI01



石川県 千代能美遺跡 SI01



北陸における弥生時代後期・終末期
のおもな拠点集落

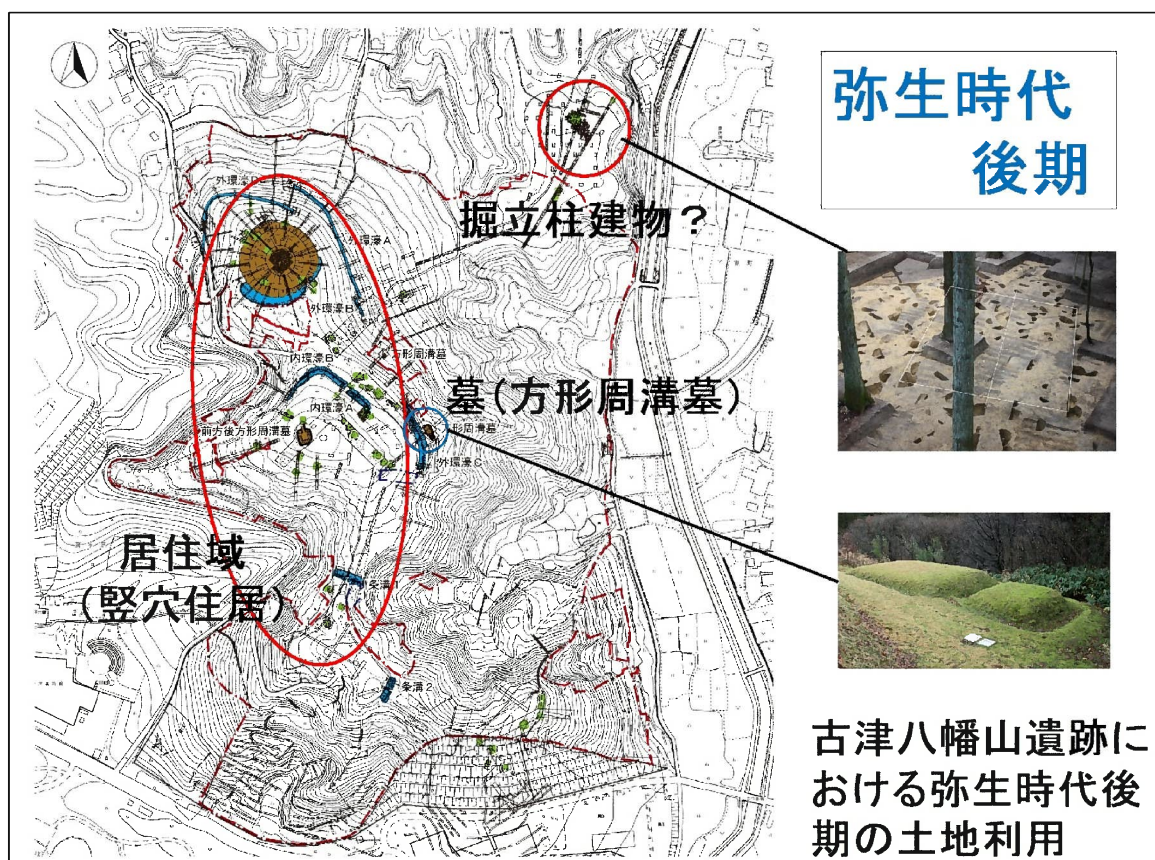
おわりに

古津八幡山遺跡において、弥生時代後期（約 2000 年～1800 年前）には外環濠の内側を中心に竪穴住居が密に分布していることから、外環濠内部の丘陵頂上が主要な居住域として利用されていたと考えられます。

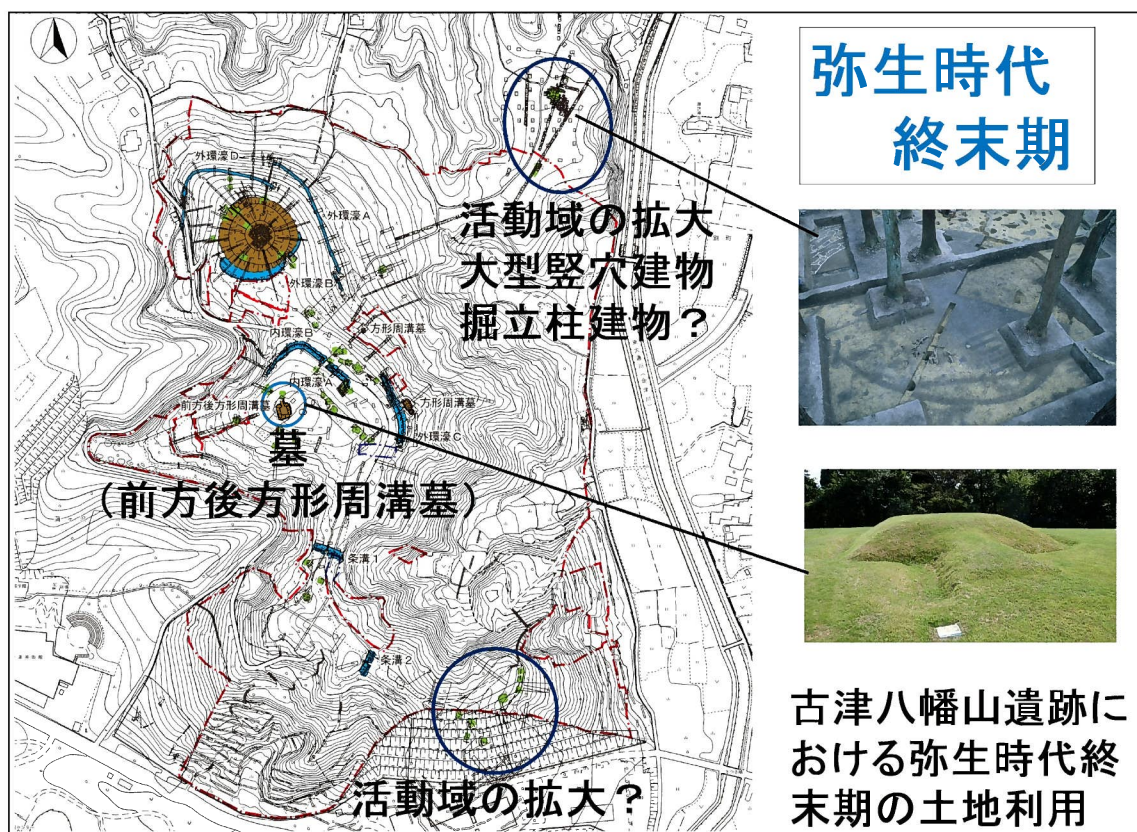
一方、弥生時代の終わり頃（約 1800 年前）になると、すでに外環濠の一部は埋まって濠としての機能が低下し、またそれを反映するかのように竪穴住居の分布が外環濠の外側へ広がる傾向が見られます。さらに、丘陵最高部には新たな形式の前方後方形周溝墓が築かれます。このような動向は、弥生時代の後半に出現した高地性環濠集落の解体とともに、弥生時代から古墳時代への社会の大きな変化の一端を示していると考えられます。

多柱構造で排水溝を伴う大型竪穴建物（SI 1）は、西方の有力集落とのつながりの中で出現したと考えられます。丘陵の頂上を集落の中心域とする弥生時代後半の社会から、平場が集落や居館の中心域となる古墳時代の社会へ、さらに言えば、弥生時代の首長から古墳時代の豪族、王へと移行していく、社会の激動期を反映したシンボリックな建物であったと思われます。

今後、さらに尾根の北側や、麓を含む周辺域について継続的な調査・研究を行うことによって、古津八幡山集落の動態や当時の社会がより明らかになっていくことでしょう。



弥生時代後期の古津八幡山遺跡



弥生時代終末期の古津八幡山遺跡

弥生時代の古津八幡山遺跡の動向

時代		北陸南西部編年	八幡山遺跡	古津八幡山遺跡				
弥生時代中期	小松 寺光寺 戸水B			東北南部系	地元系 折衷系	北陸系		
				環濠	竪穴住居	掘立柱建物	墓	
弥生時代後期 早期～古墳時代終末 古墳時代前期	V-1群							
	V-2群							
	V-3群	獵納式	1期	SI03S20 SD03S16上層・SX1005	八幡山式土器			
	2-1群		2期	SI03S02・SI03S21・SI03N02・SX1005		集落の出現 外環濠の掘削		四隅が切れる 方形周溝墓
	2-2群	法仏式		SI0602・SD03S25 墓土中下層		周溝を持つ 隅丸方形の 竪穴住居	掘立柱建物群？	
	3群	月影式	3期	SI1003		環濠が上層まで埋没 ⇒一部再掘削？ 内環濠掘削？		
	4群		4期	SI0705		大型竪穴建物(SI1)		
	5群	白江式	5期			竪穴住居(SI465)		前方後方形 周溝墓？
	6群					高地性集落の廃絶 沖積地の集落の出現		
	7群	古府クルビ式						
	8群							
	9群	高市式						
	10群							古津八幡山古墳！

【お知らせ】調査担当者による企画展の展示解説を行います！

日時 2021年5月23日(日) 13:30～

申込み 不要(直接、弥生の丘展示館へお越しください。)